

令和元年度 第1回嘉麻市公民館運営審議会

1. 日時 令和元年6月28日（金） 14:00～
2. 場所 嘉麻市嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ 大研修室
3. 公開又は非公開の別 公開
4. 傍聴人数 0人
5. 出席者（敬省略）

【審議会委員】

○	正平 辰男		堀口征一郎	○	大山 征男		吉田 博満	○	山口 俊徳
○	石場 広規	○	櫛 ひろ子	○	手島 静恵	○	森田 信代	○	春口 勇介

【事務局（教育委員会）】

○	教育長	木本 寛昭	○	生涯学習課長	末永康洋
○	生涯学習課長補佐	大塚 千穂子	○	中央公民館係長	山本 賢治
○	中央公民館係	和田 真由美	○	中央公民館係	本松 紗季
○	嘉穂地区公民館長	森田 正裕	○	山田地区公民館長	松岡 一彦
○	碓井地区公民館長	浦田 浩二	○	稲築地区公民館長	宇佐波 吉徳

6. 委嘱書の交付 教育長より交付
7. 開会のことば 中央公民館係長 山本 賢治
8. 教育長あいさつ 教育長 木本 寛昭
9. 自己紹介（委員・職員） 委員並びに職員の順にて自己紹介
10. 議題

（1）嘉麻市公民館運営審議会 副委員長の互選について

副委員長（石場 広規）

嘉麻市公民館運営審議会規則第3条及び同条第2項に基づき、副委員長を互選により選出。

（2）嘉麻市教育委員会点検評価委員の推薦について（1名）

開催予定日

第1回	令和元年7月17日（水）	13:30～16:00
第2回	令和元年7月24日（水）	13:30～16:00
第3回	令和元年7月31日（水）	13:30～16:00
予備日	令和元年8月5日（月）	13:30～16:00

推薦委員（春口 勇介）

（3）令和元年度事業計画実施内容について

資料により説明

《意見及び質疑応答》

委員：公民館運営委員になり、公民館活動の違い、組織的な違いを初めて知ることができた。基本計画を何年かかけて進めていくという話だが、市民に浸

透させることは、とても難しいことだと思う。そこに何名か核となるリーダーがいることにより、公民館基本計画や、公民館活動、嘉麻市の方針等についても伝わりやすくなると思う。お互いが他の地区は何をしているのかを、見て話しをする機会を一年間に何度か行うことができれば、その中でも話が伝わるのではないか。回数を重ねなければ、気持ちの面での意思疎通をすることは難しい。新しい公民館基本計画を作っているのだから、次を担う方には他の地区とも意見の交流が出来るような、リーダーになってもらいたい。そうしなければ、公民館基本計画は進まないのではないかと思う。

事務局：リーダー育成の件と、嘉麻市でどういったことをしているのかという件に関して、今年度の嘉麻市公民館関係者研修会では、嘉穂地区の千手分館、山田地区上山田分館に、公民館活動の実践発表をしてもらおうと考えている。年に何度かご意見をいただき、今年度の嘉麻市の研修会としては、この一回しか予定していないが、今回の研修会で、実際嘉麻市でどのような活動をしているのかを知ってもらえればと思っている。もう一つのリーダー育成の件については、市民の防災意識が高いので、防災講座を行うことで地域を巻き込み、講座を受けた人に地域に持ち帰ってもらい、地域の組織が自ら考え、行動してもらい、地域の活性化に繋げることが出来ればと考えている。子ども体験講座については、今は碓井地区をモデルで実施することになっているが、今後嘉麻市全体に広げて行ければと思っている。通常の講座では人が集まらないという意見が以前からあったため、今回は保育園の保護者を対象に、実施していきたいと考えている。碓井地区を選んだ理由としては、碓井地区に新たに分館を設置し、分館を担ってくれる若い世代を呼び込んでいきたいと考え、計画をしている。若い世代は、公民館がどのようなことをしているのか、知らない人が多いと思うので、保護者に自分達で企画してみませんかという形で呼び込んでみようと考えている。広く呼び込んで、最初はなかなか人が集まらないのではないかと思い、今回は碓井地区の保育園に絞って声をかけたいと考えている。その中からリーダーが出来ればと思い、碓井地区をモデルとして実施していると考えている。

委員：計画を検討する時の考え方、視点について申し上げたい。このそれぞれの公民館で計画されている事業を通して、一体どういった街づくりをしようとしているのか。その関係性は計画している人や、参加している人に意識されているのか。意識されていないとすれば、行政側から働きかけ、意識付けを図っていく事が必要だろうと思われる。私が請け負っている仕事の関係でいうと、小学生を合宿させ、生活体験学校を積ませる事業を、30年やっている。飯塚市が合併して、不都合なことはあったが、子ども達に話を聞くと、他の小学校の子どもと一緒に過ごして、友達になれたことがうれしかったとアンケートに書いていた。元々庄内町で小学校も1校しかなかったが、合併して今は20校ある。子ども達のことを考えると、高等学校で出会っていたかもしれない子ども達が、6年生までの間に、他の小学校の子どもと泊まるということは、人の繋がりを作るという意味で、大

事な事なのだろう。そこを大事にしながら、事業を展開していくと言いながら、30年も同じ生活体験学校をしていて、全国に広く知られるようになった。だが、それだけでは同じ事ばかりだという意見がある。例えば、静岡県では、かなり広い範囲で通学合宿をしており、今HPでは、通学合宿に並び防災合宿というものも行っている。子ども達の合宿中に、停電や津波を想定した生活の仕方や、逃げ方を教育している。静岡県では、地震や津波がきた経験があったため、通学合宿だけではだめだ。災害の時に、どのようにするのかを教えなければいけないということで始まった。私の所でも、一昨年から飯塚市に協力をお願いし、防災安全の危機管理の方に来ていただいて、講話や災害の映像を子ども達に見てもらった。停電時の晩御飯の体験として、明るかった部屋の電気を突然消し、テーブルの上にランタンだけを置いてご飯を食べてもらった。その時の子ども達は、不自由この上ないといった様子だった。そのような防災合宿を行っており、今年で3年目になる。今年は3回実施予定である。そうすることで、子どもに防災をどのように教えていくかが分かってくる。嘉麻市の場合、山田に日赤病院があるので、相談をすればどんな指導もしてくれる。他の地域より条件はいい。大人の防災教育も、子どもの防災教育も山田の日赤病院のノウハウを借り、そのような観点をもって、しっかりとこの事業の中に反映されていかなければならない。

(4) その他

1) 嘉麻市公民館関係者研修会について

日 時 : 令和元年7月19日(金) 13:30 受付 14:00 開会

場 所 : 嘉麻市嘉徳生涯学習センター夢サイトかほ

研修会 : 開会行事 14:00~14:10

【第1部】 14:10~14:40

[実践発表]『上山田分館の活動について』

山田地区公民館 上山田分館

【第2部】 14:50~15:20

[実践発表]『千手分館の活動について』

嘉徳地区公民館 千手分館

2) 今後の研修会等について

令和元年 7月26日(金) 「福岡県公民館大会」(苅田町中央公民館)

8月29日(木) 「九州地区公民館研究集会」(佐賀市)

~30日(金) 兼「全国公民館研究大会」兼「社会教育研究大会」

令和2年 1月22日予定 「福岡県公民館実践交流会」(宗像ユリックス予定)

未定 「筑豊地区公民館職員研修会」(田川市)

《意見及び質疑応答》

委員: 新聞に載っていた記事を見たのだが、碓井地区と稲築地区の小中一体型校の説明会について、これは学校関係のみの説明会になるのか。公民館の建

築については、同じ敷地内にできるという話だったが、その事については盛り込んであるのか。

事務局： 現在、学校の施設整備については、小中一体型校の施設整備計画を立てている。今の所、稲築地区の公民館・図書館については、稲築西小学校と稲築中学校の一体型校の中に併設して、整備する案が挙げられている。一定の方向性は示すことができたのでは、と思っているが、今課題として挙げられているのは、建設費の財源が問題になっていることである。こういったものも、有効な財源等を検討しながら、より良いものが出来るように、前向きに検討している。

委員： 公民館や図書館の併設がいつ頃できるというのは、決まっていないのか。

事務局： 学校の建設に入れば、そこは同時期になると思われる。

委員： 市民説明会の時には、そこまで説明をするのか。

事務局： 同じ質問が出た場合は、同じ回答をする。

委員： 前回の会議の中で、公民館活動を新聞やテレビを通して広報しなければ、みんなに伝わらないと申し上げた。嘉麻市が行ったアンケートの中でも、公民館が何をしているのか知らないというパーセンテージが高かった。嘉麻市の公民館に限らず、県の行政でも県民の認知度は結構低い。知らないと言われると話すことも出来ない。知ってもらおう努力をするしかない。前回新聞やテレビに極力報道をしてもらおうよという提案をした。昨年、生活体験学校では新聞社に依頼したところ、西日本新聞は筑豊版の紙面の半分ほどをつぶして、広告をしてくれた。扱いが大きかった。落ち葉をたくさん集めて、子ども達を遊ばせる落ち葉プールというものが、子どもにとっても喜ばれる。それを新聞社に、10回以上報道してもらえた。今年に入って短い時間ではあるが、テレビ局も報道してくれた。1分でも放送してもらおうと、すぐに電話がかかってくる。やはり、テレビの反響は大きい。嘉麻市が新聞やテレビで報道されているのを見る時は、鮭神社や鮭の川登りが多い。嘉麻市の公民館がこのような事を行ったといった新聞報道を増やしていくためには、嘉麻市の公民館での事業内容や、日時等を記入したフォーマットを作り、新聞・テレビ各社にその都度送る。タイミングが合えば、取り上げてもらえる。公民館のあらましや、年次報告などを作成し、これが嘉麻市の公民館の概略であることを、誰にでも説明できるような公民館の年俵を、簡単な形でいいので作成すれば良いのではないか。作成しておけば、振り返ることも出来る。

事務局： 報道機関向けのPRというのは、効果が高いものだろうと思う。先程、委員が言われた通り、何度もチャレンジをするということは、大事なことだと思う。ご意見を参考にし、公民館の事業の周知を図っていきたい。また、他の委員からも話があったが、一番の課題は人材育成である。公民館だけではなく、様々な人材不足が生じているのだと思う。計画も出来上がり、分館方式という大きな目標を掲げ、分館になれば分館長や主事を配置し、そこそこの活動が活発になってくると考える。その為に、育成を兼ねる研

修会に、数多く参加していかなければならないのだろうが、委員が言われる核となるような人材を、発掘していくことも大事だと思う。我々行政だけでは到底無理なことであり、地域の日ごろから活動されている方や、今まで参加していないが能力のある方は、たくさん埋もれているのだと思う。それを公民館運営審議会の方々にもアンテナを高くしていただき、一緒に人材の発掘に協力していただければと思う。というのは、嘉穂庁舎は除却になっており、稲築地区には本庁舎が出来てきている。碓井庁舎の職員が新庁舎に移り、碓井庁舎を補修し、嘉穂の教育委員会の全員が、碓井庁舎に引っ越すことになる。現在、碓井地区は分館方式ではなく、自治公民館二十数館が運営しているが、ここに新たに分館をいけるということになると、新たな展開が出てくる。いろいろなものが動き出す時期であり、新しく人を育成していくやり方、こういったものを公民館運営審議会の皆さんで、きちんと検証していただいて、方向性を出して行っていただきたい。今後とも共に協力し、時には皆さんの知恵を借りながら、やっていきたいと思っている。

11. 閉会のことば 榎 ひろ子 委員長

上記に相違ないことを確認する。

令和元年7月24日

会議録確認者 榎 ひろ子